チェリーブラッサム

校　長　　武井　正明

いつもこの時期になると、松田聖子のこの曲が浮かんでくる。

この曲の何が好きって、私はこの曲の前奏が大好きだ。作曲家ってすごいと思う。

ドラムの低い音はきっと不安の象徴。それが次々といろんな明るい音が重なって、希望と自信に満ちてくる。やがてそれは確信となり、一面満開の桜になっていく…。

朝、生徒玄関で吉中生のみんなを迎える。

しばらく雨が降っていた。自転車の人たちの安全を祈りながらの出勤だった。

その雨もようやく止んで、やれやれといった感じが伝わってくる。

「おはよう！」「校長先生、今日私誕生日！」と笑顔で応えてくれた女子生徒がいた。いいなあ。今日は彼女にとって大切な、嬉しい誕生日。今晩はお祝いかな。嬉しいことを嬉しいと笑顔で報告できるのも、まっすぐで、真っ白で、キラッキラだ。

それなのに…「それはおめでとう！ということは、さだまさしの誕生日の次の日だね」

またやってしまった。微妙な表情で彼女は校内に消えていった。

そして、朝イチは真和会入会式。

出張前に生徒会役員たちの進行ぶりを見ていた。

３学期の経験が活きている。実に堂々と、落ち着いたものだ。安心感と安定感がある。

１年生の説明を聞く姿。これもいい。委員会、何に入ろうかな。放課後は部活動説明会もあった。じっくり考えてほしいな。

出張から帰校する際、吉田体育館近く、テニスコートの桜に目を奪われる。

桜は、ほぼ満開に近づいていた。いつのまにか、春は馬車に乗ってやってきたんだ。

自然の摂理とは、なんと奥深い…。あんなに寒かったり、雨が降ったりしても、着実に季節の移ろいを感じ取り、桜は樹木全身で、透き通るようなピンクを表現する。

今日は１年生にとって、中学生活初給食。

教室では、健康推奨委員会の３年生たちが、配膳の様子を見守り、スムーズに運ぶように支援してくれていた。

ワクワク、ドキドキはこれからが本番だ。